

総合的な学習の時間「幸福とは何か」学習指導案（展開例）

1 単元（題材）名：「ナジェリ的一天」を読んで、幸福とは何かを探究する

2 単元（題材）観

本単元は、マラウイ教師海外研修において収集した開発教育教材を活用して展開しており、グループ内の協同作業により、互いの意見を尊重しながら生徒自身の生活を振り返り、幸福とは何かを深く思考させることを目標としている。開発教育の手法を取り入れることにより、生徒の心の動きを作り、課題や多様な価値観を発見するよう工夫していきたい。参加型の授業形態により、生徒自らの在り方生き方について考察させることが可能な題材であると考え

3 単元の目標

- ・課題文から正確に情報を読み取ることができるようになる。
- ・事实的背景と関連付けて課題文を読むことができる。
- ・自分の気付いたことを相手に伝わるように表現することができる。
- ・自らの在り方生き方について考察することができる。

4 本時の展開

(1)本時の目標

- ・マラウイの少女が書いた「ナジェリ的一天」及び「私が幸せを感じる時」を読み、情報を社会的背景と関連付けたり、自らの生活と比較して分析的に読み取ることができるようになる。
- ・日本とは異なる生活環境の中にある課題やよい点に気づき、豊かさや幸福の本質について深く考えることができる。
- ・意見を共有することを通して、異なる意見や価値観を尊重することができるようになる。

(2)観点別評価規準

- ・本当の幸福とは何かについて課題意識を持って意欲的に追究している。（関心・意欲・態度）
- ・自らの生活と比較して、課題文を分析的に読み取ることができる。（思考・判断）
- ・相手に分かりやすく自分の気づきや意見を表現することができる。（技能・表現）
- ・思考の材料となるマラウイ特有の生活実態について正確に理解することができる。（知識・理解）

(3)準備物

配布資料（写真を含む）「ナジェリ的一天」「私が幸せを感じる時」

写真（シマ、ロウソク、カゴを運ぶ人、水を運ぶ人、市場、レンガ建築、ポテト工場、サモサ等）

動画（幼稚園での様子）／通貨／チテンジ（布）／ポストイット／マジック／意見集約用台紙／ワークシート

～つづき～

(4)学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
導入	既習事項であるチェワ語、チテンジ、通貨についてのクイズに答えることで、マラウイの文化についての知識を確認する。	既習事項について実物を提示しながら、マラウイ文化について確認する。	既習内容について理解している。(知識・理解)	観察
展開Ⅰ	「ナジェリ的一天」を読んで、マラウイの課題及び良い点を書き出し、グループ内で意見を共有する。	全ての意見が尊重されることを伝え、気付きや意見を出し易い環境を作る。写真や動画によりイメージを明確なものにする。観察に十分な時間を取る。	知識を正確に獲得している。(知識・理解)	観察 意見集約用台紙
展開Ⅱ	「私が幸せなとき」を読んで、気付いたことを書き出し、グループ内で集約する。	互いの気付きを尊重する態度を重視する。間違った答の背景にあるものを重視する。自由な発想を大切にする。	グループ内で協力してまとめている。(思考・判断)	観察 意見集約用台紙
展開Ⅲ	グループで集約された気付きや意見をクラス全体で発表する。	意見の共有を図る。自分と異なる意見を受け入れるよう促す。	集約した意見を適切に表現する。(表現) 聞き取った内容をまとめる。(技能)	観察 ワークシート 発言内容
終結	集約された意見等をもとに、幸せの条件について思考する。	環境に様々な生活のあり方があることを確認する。心の豊かさが幸福に繋がっていることを伝える。	自らの幸福観を見直している。(思考・判断)	観察

「ナジェリの日」

私はナミテテ地区にあるチャクザモト村に住むナジェリ（Najeri）です。「元気でよく働く子になるように」という願いを込めて父が付けてくれた名前です。小学3年生です。小学校は学費が要らないので8年生まできつと通えると思います。私の家族は父と母、13歳の兄ジョナサン（Jonathan）、10歳の姉クリスティーナ（Christina）、3歳の弟ユスフ（Yusuf）、1歳の妹ナンベウエイ（Nambewei）と私の7人家族です。本当は生きていたら9歳になる兄ジョン（John）がいるのですが、7歳の時にマラリアにかかって亡くなってしまいました。私たちは毎日お墓に行ってお祈りをしています。

私の家族はみんな4時に起きます。まだ真っ暗だけど、私はろうそくの火を灯して市場で売るトマトや菜っ葉をかごに入れます。母と姉はご飯を作ります。父は家から20km離れた首都ロングウェのホテルで警備員（watchman）として働いています。6時から仕事が始まるので、起きたらすぐに家を出て2時間かけて職場へ歩いていきます。途中の市場でパンを買って食べるそうです。6,000クワチャを毎月もらっているの、私たちはお腹が空いて死にそうになることはありません。ユスフの給食代やジョナサンの学費も払ってくれています。朝ごはんが終わると、兄と姉は井戸へ水汲みにでかけました。



今日は私がナンベウエイの世話をする日なので、学校を休みました。ユスフはコンソルホームズの幼稚園までの2kmの道を友達と一緒に歩いていきました。最近の色を習っているので、pinkやsilverやgoldを私に教えています。私も一緒に色の勉強をしています。母は隣町のドーワ病院へ妊産婦検診に行きました。



HIVに感染しているので、赤ちゃんを守るためにARVという予防薬をもらって飲んでいます。5:30の診察に間に合うように早く家を出ました。家族がみんな家を出たあと、私はナンベウエイをチテンジでおぶって洗濯をすませ、村の子どもたちとネットボールをしました。家の手伝いがあるので、みんなあまり学校に行っていません。お腹が空いたので家に帰ると、母がシマを作っていました。今日はカボチャの葉の他に豆を焚いたおかずもありました。昼からは、メイズの粉を袋に入れて母と私とで市場に運びました。15kgもあるのに母は肩と頭で楽々と運びます。母はカゴもハンドバッグも靴までも頭にのせて運びます。



夕方になって、ジョナサン、クリスティーナが帰ってきて、ポテトを調理してくれました。父は6時までの仕事が終わって、8時に帰ってきました。サモサのお土産がありました。「明日、学校に持っていけるよ。」と言って私にくれました。明日はクリスティーナがナンベウエイの子守をするので、私は学校に行くことができます。友だちや先生に会えます。明日が本当に待ち遠しいです。

「私が幸せを感じる時」

私は家族みんなが希望をもって、とても嬉しいです。父は警備員の仕事に誇りをもっているし、母はサポートグループでの活動や家族の世話をすることに生きがいを感じています。クリスティーナは看護師になりたいと言います。マラリアに罹って亡くなったジョンを助けてやれなかったのが、大きくなったらどんな病気の人でも助けたいと言います。ジョナサンは医者になるために5 km歩いて中学校に行きます。HIV/AIDSで亡くなる人を一人でも減らしたいと言います。彼が高校に行って、私が中学校に通うと学費がたくさんかかるので、母は家計のことを心配しています。大学に行かせるためにはもっと多くのお金があるので、母は来月からOVOPのポテト工場で働くことになっています。ここで働けば、給料をもらえるし、アイリッシュポテトを持って行くと買い取ってくれるそうです。



母と父は、HIVに感染しているけれど、とても元気です。母は、患者のサポートグループのリーダーをやっていて、歌や踊り、ドラマを教えています。父は仕事が空いていると、母の手伝いをします。二人とも「仲間の力があれば、何もこわくない。」と言います。村では、毎週誰かが亡くなります。次は私の家族かもしれません。でも、私は心配していません。兄弟力を合わせれば、家事も仕事も何でもできるからです。それにもし、HIVに感染しても、サポートグループで活動すれば、母のような前向きな生き方ができるからです。

私はチェワ語の先生を目指しています。学校で習うチェワ語の授業がとても楽しいからです。昔のチャクザモト村の様子やムタリカ大統領の結婚式の話先生がしてくれる時、本当にワクワクします。私は、私たちのチェワ語を大切に守り、次の世代に引き継ぎたいと思います。ナンベウエイはまだ言葉を話さないの将来のことは分からないけれど、ユスフは運転手になることを夢見ています。たくさん勉強して病気の人を病院に連れて行く運転手になる、と言っています。

(現地での聞き取りを元に香川が作成した文書)

資料 3

The EU has a policy of actively encouraging citizens to learn foreign languages, not only at school and university, but as a lifelong activity. This is why it has recently been proposed that all EU citizens should be able to speak their mother tongue, plus two other EU languages. This is not an unattainable dream. It is, after all, already the case in several member states or regions.

Multilingualism is a fact of life in Europe. The active policy of encouraging more citizens to become even more multilingual is stimulated in part by a desire to improve communication and to overcome linguistic barriers to trade and the free movement of people. More importantly, it is based upon a respect for the cultural heritage of each citizen and on the belief that with the learning of language skills come many other abilities and qualities that are of crucial importance to the European citizen of the future. The more Europe builds upon its multilingual nature, the more mutual understanding and solidarity among all its peoples will be strengthened.

(平成17年度広島市立大学国際学部推薦入試問題より抜粋)

資料 4 “Language in Danger”

What does it mean to us when a language disappears? Languages are similar to plants or animals in a sense. When they die out, it is as if they are made extinct by other bigger languages. But in another way, languages are not like living things at all. When a plant or animal species dies, it is easy to understand what has been lost: one more living thing on the earth is gone forever. When people die, they leave signs of their presence in the world, in the form of their living places, tombs, and artifacts. A language, on the other hand, is not a thing we can directly see. It is only a product of the mind. When it dies, it never leaves signs of its remains, and it is as if it had never been. Yet, what we lose when a language dies is the possibility of a unique way of seeing and describing the world. That is, we lose the opportunity to see the world from a point of view that may be quite different from our own.

(PRO-VISION ENGLISH COURSE II New Edition 064 Lesson 8 “Language in Danger” より抜粋)

When you hear the word "water," you may think of the water in a glass or bathtub. That's the kind of water which you are most familiar with. However, there is another kind of water.

How much water is needed to produce a hamburger? The answer, which might surprise you, is about 1,000 liters.

Let me explain. You need lots of water to grow wheat for bread. Research shows that you need 2,000 liters of water to produce one kilogram of wheat. You also need 2,000 liters of water to produce one hundred grams of beef. Why do you need so much water to produce beef? The reason is that a lot of feed is necessary to raise cattle. Water is needed to produce that feed.

Since Japan cannot produce enough wheat or beef, it imports a lot of both of these products from abroad. And this means that we are indirectly importing a large amount of water.

As you know, Japan imports not only wheat and beef but also many other agricultural products. Japan also imports some industrial products. The water that is used in making such imported products is called "virtual water."

Please look at Figure 1, which shows how much virtual water is used in various products. You can see that corn and soybeans need a large amount of water. Most of these crops are used as feed for cattle raised in Japan. Figure 2 shows the countries from which we are importing virtual water. As you can see, we are importing as much as 64 billion cubic meters (64,000,000,000m³) in one year. This is equal to two-thirds of the total use of regular "real" water in Japan.

(WORLD TREK ENGLISH COURSE II Lesson4 “Virtual Water” より抜粋)

沖縄方言（ウチナーグチ）について

1 沖縄方言（ウチナーグチ）とは??

沖縄方言（ウチナーグチ）は、大きく奄美方言（奄美語）、国頭方言（国頭語）、沖縄方言（中央沖縄語）、宮古方言（宮古語）、八重山方言（八重山語）、与那国方言（与那国語）の諸方言（諸言語）に分けられます。

本来「ウチナー」とは「沖縄本島」のことを指しています。そのため他地域の方言もすべて含めて「ウチナーグチ」というのは不適切な表現であると、問題にもされています。そのため、沖縄方言は、正確には「琉球語」と呼ばれるらしいです。

沖縄のことは3つの母音で話すのが基本です。ア・イ・ウ・エ・オが、ア・イ・ウ・イ・ウと変換されます。子音などは、主に語尾の部分について、唇を横に広げたようなイントネーションらしいです。

例えば…

雨（あめ）→アミ 舟（ふね）→フニ 雲（くも）→クム 灰（はい）→フェー
前（まえ）→メー
青い→オ（ウ）ーサン 買う（かう・終止形）→コーユン

2 ウチナーグチの現在

明治から昭和中期までの間に、標準語の普及とともに、ウチナーグチは、現在衰退の一途をたどっています。2009年、ユネスコは奄美語、国頭語、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語のそれぞれを危機に瀕する言語と指定しているそうです。現在は、ウチナーグチと標準語ミックスされたウチナーヤマトグチが使われ、純粋な「琉球語」は、ほとんど使われなくなっています。

ウチナーヤマトグチの例

ウチナー＝沖縄（おきなわ） ウチナアンチュ＝沖縄の人
ヤマトウンチュ＝日本本土の人
ナイチャー＝「ヤマトウンチュ」とほぼ同義
ワーバサー＝いたずらっ子の事 ガチマヤー＝食いしん坊
ゴーヤー＝ニガウリ ユクシ＝嘘
ニーブヤー＝いつも眠たそうにしている人
ジョートー＝カッコいい ドウシ（同士）＝友達



3 ウチナーグチを守るために

現在でも、沖縄時代劇や組踊、琉歌、琉球民謡・島唄などの伝統芸能では純粋な「琉球語」が使われています。郷土の文化を絶やさないために、近年では沖縄県の県立高校を中心に「郷土芸能文化学科」を設立して、方言も含めた沖縄文化を若い世代に継承していく取り組みをしています。



また最近では児童向けに、ご当地ヒーロー「琉神マブヤー」が大ヒットしており、ローカルヒーローの話だけではなく、子供たちに沖縄の言葉や文化、歴史を伝えていく試みも盛り込まれています。

©琉神マブヤー 公式サイト<http://www.mabuyer.com/>

ユニセフ 基礎講座 第38回

水危機から考える日本の食糧問題



中央アジアの乾燥地帯で、水不足が深刻化している。ロシアの国境に近い地域では、ほとんどの農家が干ばつのために倒産した。

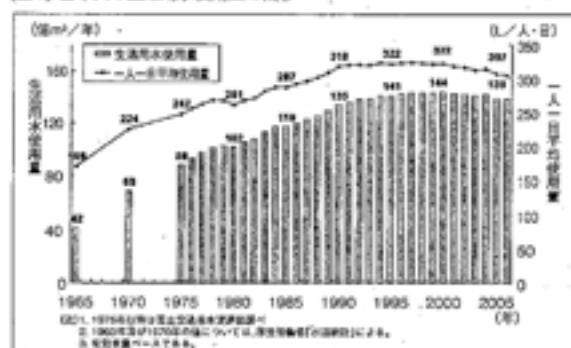
降水量に恵まれた日本では、幸いなことに水不足に陥ることも少なく、安全で質の高い水を摂取しています。一方、開発途上国では、恒久的な水不足、高い水道料金の負担、国内での使用可能な水量における格差など、水の問題に常に悩まされています。世界的な水危機を避けるようとしている近年、開発途上国では欧州企業による独占的な水道事業の民営化が加速し、水ビジネスをめぐる動きも活発に

なっています。世界で起きている水の問題と日本も無縁ではありません。穀物の栽培や生産には大量の水を必要とするため、水不足が起これば、食糧危機をまねくことになります。世界的な水の危機によって、日本でも今と同じ生活を送ることは難しくなるかもしれないのです。

世界の水を大量に使う日本

日本人の水の消費量は、40年前に比べるとおよそ2倍に増えました。〔図1〕参照〕私たちが日常生活で使用する水以外に、食料や衣類などさまざまな日用品の生産過程でもたくさんの水が使われています。現在、日本の食料自給率は約40%で、残りの約60%は海外に依存しています。それは同時に、海外から多くの水を輸入しているということにもなります。その間接的に輸入している水はバーチャルウォーター（仮想水）と呼ばれます。ロンドン大学教授のトニー・アラン氏が提唱したこの考え方によると、日本は年間約640億m³の水を海外から輸入しており〔図2参照〕、これは日本人1億2,000万人が使用する5年間分の水に値します。この計算では、牛丼一杯に約1,890ℓ、ハンバーガー1個に約1,000ℓの水が使われていることになります。日本の食生活は、海外からの水によって大きく支えられていると同時に、世界の水問題は日本の食糧問題でもあるのです。

〔図1〕日本人の生活用水使用量の推移



出典：国土交通省ウェブサイト、国・生活用水使用量の推移より作成

〔図2〕日本の仮想輸入水総輸入量



出典：東京大学農学系研究科 水資源研究センター、国・生活用水使用量の推移より作成

食生活から世界の水問題を考える

日本の食生活の変化は、水の輸入量にも大きく関係しています。パンや肉、乳製品など、輸入に頼る食品の消費が増えたため、それらの生産に要する水も大量に使っています。どれだけの膨大な見えない水によって私たちの生活が成り立っているのかを認識することが大切です。また、日本は食糧を大量に輸入しながらも、大量に消費している国です。国産のものを育成するように奨励すること、食べ物の無駄をなくすようにすることは、私たち日本人が心がけるべきことです。飢饉に苦しむ人々が約10億人いる現在、私たちは水を大量に消費する先進国として、果たさなければならない責任があるのではないのでしょうか。

〔参考文献〕
・東京大学農学系研究科 水資源研究センター「世界の食料と日本の水問題」
・国土交通省「水・生活用水使用量の推移」
・国連開発計画「世界水開発報告書」
・国連開発計画「世界水開発報告書」